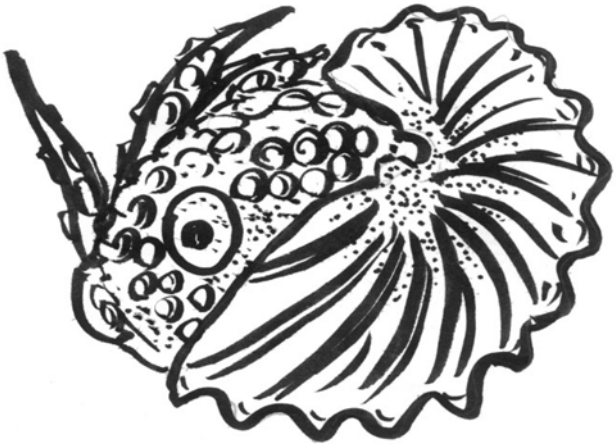
「日々の理科」（第 465 号） 2015（H27）,10,12

「頭足類の多様性（１）」～殻を持つタコ～

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

軟体動物（門）の中に、頭足類（綱）という分類群がある。名の通り、頭の上に足がついている形態の生物だ。イカやタコは、すべてここに属する。軟体動物には、骨がない。本来は貝のように殻を持っていたのだが、タコやイカでは、ほとんどが退化してしまった。しかし、種類によっては今でも殻を持つ。タコブネやオウムガイのように、体の外に殻を持つものもある。

「タコブネ」　*Argonauta hians*　（アオイガイ科）
弾力のある殻で、生きている時は内部に、小さなタコが入っている。殻は「借り物」ではなく、タコ自身がつくるので、成長肋線が残る。冬の日本海で、殻が打ち上げられることが多い。 糸魚川海岸産 / 田中標本



「タコブネの生体図」　作図；C. Tanaka
生体（軟体）は、自らが形成した、殻の中で生活している。泳ぐ時は腕を出すが、普段は丸くなっていることが多い。タコなので、腕は８本である。

「オオベソオウムガイ」　*Nautilus macromphalus*
ニューカレドニア産 / 田中標本　（オウムガイ科）
属名の Nautilus は「水兵」という意味である。

オウムガイ科の中でも、中心部の臍孔（さいこう）が特に広い種類で、やや稀。古生代に繁栄した、オウムガイ類（直角貝）の子孫である。オウムガイの現生種は、亜種を含めても 10 種にも満たない。子孫というよりは、「生き残り」いったほうが正しい。これだけ長寿の系統は、非常に珍しい。オウムガイと共通の先祖を持つアンモナイトは、中生代末期（一部新生代初期まで残ったという説もある）に完全に絶滅した。なぜ、オウムガイの系統が絶滅せず、４億５千万年も生き延びているのか、本当に不思議だ。　（つづく）

「オウムガイの生体図」　作図；C. Tanaka